

①大学（薬・香薬以外）

② 入試区分

I 期A日程

③ 出題科目

世界史探究

④ 出題の意図

出題範囲の中から、特定の時代や地域に偏ることなく出題し、世界史について幅広い知識が身に付いているかどうかを評価した。論述式の解答については、最終的な結論だけでなく、それに至る論理の過程が説得力を持って記述できているかどうかを評価した。

世界史探究

I 次の文章の空欄（1～20）に適切な語句を入れて文章を完成せよ。語句は下の「語句欄」から選べ。

ヒトラー率いるドイツは「（ 1 ）」を大義名分に掲げ、1938年3月に（ 2 ）を併合し、9月にはドイツ人が多く居住する、チェコスロヴァキアの（ 3 ）地方の割譲を要求した。戦争の回避を望むイギリスの（ 4 ）首相（1869-1940、在任1937-40）は、ドイツの矛先がソ連に向かうことも期待しながら、フランスとともに、ドイツに譲歩する宥和政策をとった。しかし、ヒトラーはこれに満足せず、翌39年3月にスロヴァキアを独立させて（ 5 ）とし、チェコを（ 6 ）としてドイツに編入した。これをチェコスロヴァキア（ 7 ）という。

緊張が高まるなか、ソ連はイギリスとフランスの宥和政策に不信を強め、ドイツとの提携へと方針を転換した。1939年8月末、独ソ不可侵条約の締結が発表されると世界中が驚愕した。ソ連との安全保障を得たドイツは、9月1日、ポーランドへの侵攻を開始した。イギリスとフランスはドイツに宣戦し、第二次世界大戦が始まった。

ポーランドは、ドイツ軍、またソ連軍の侵攻によって短期間で敗北し、領土は独ソ両国に分割された。さらに、ソ連は1939年11月に安全保障の名目で（ 8 ）に宣戦し、40年には、独ソ不可侵条約の秘密議定書にもとづいて（ 9 ）3国（エストニア、ラトヴィア、リトアニア）を併合した。また、ルーマニアからも（ 10 ）を割譲させた。

独ソ不可侵条約の締結後も、ヒトラーはソ連を「劣等人種」の国とみなしていた。1941年6月、ドイツ軍は突如ソ連に侵攻して独ソ戦を開始し、不意をつかれたソ連軍は後退を重ねた。同年末にドイツ軍はソ連の首都（ 11 ）の郊外にせまったが、ソ連軍は大きな損害を出しながらも押し返した。独ソ戦をきっかけに、英ソ両国は同盟を結んだ。中立国であったが反（ 12 ）の姿勢を明確にしていたアメリカ合衆国も、41年3月に成立した武器貸与法にもとづいて、イギリスとソ連に武器や軍需品を送った。

1943年初めにソ連軍は（ 13 ）（現ヴォルゴグラード）でドイツ軍を破り、以後ドイツは後退を重ねた。6月、スターリンは（ 14 ）を解散し、イギリスとアメリカ合衆国との協力体制をより確実にした。同年夏以降、ドイツ軍は防戦一方に追い込まれた。ローズヴェルト、チャーチル、スターリンの（ 15 ）会談では、連合国軍の北フランス上陸作戦が協議され、これにもとづいて、44年6月に（ 16 ）（1890-1969、のちにアメリカ大統領在任1953-61）指揮下の連合国軍が（ 17 ）に上陸した。並行してソ連軍も、（ 18 ）諸国に進軍して、ドイツ軍を駆逐していった。

1945年2月、米英ソ首脳は（ 19 ）半島のヤルタで会談し、ヤルタ協定を結んで、ドイツ処理の大綱を決めた。空襲で多くの都市や交通網を破壊されたドイツは、同年には総崩れとなった。4月末にヒトラーは自殺し、首都の（ 20 ）は占領され、5月7日にドイツは無条件降伏した。

【語句欄】

ブルガリア	フィンランド	オーストリア	ベルギー	コーカサス
バルト	クリミア	バルカン	モルダヴィア	ベッサラビア
ズデーテン	ボヘミア	スタンリー＝ボールドウィン		
アイゼンハワー	ネヴィル＝チェンバレン	トルーマン	モスクワ	
パリ	ベルリン	テヘラン	ポツダム	ダンケルク
ノルマンディー				
ペトログラード	スターリングラード	コルホーズ	コミンテルン	
ファシズム	共産主義	欧州統合	民族自決	解体
割譲	北欧			
東欧	保護領	従属国		

Ⅱ 次の古代オリエントに関するA～Dの文章を読み、下の設問に答えよ。

A オリエントとはヨーロッパからみた「日ののぼるところ、(1)」を意味する。ティグリス川と(2)川の流域のメソポタミアでは、前2700年ころまでに、(3)人が(4)やウルクなどの都市国家を形成し、壮大な神殿・宮殿・王墓などが作られ、(5)文字を創始した。前24世紀には、(6)語系の(7)人がそれらの都市国家を征服し、統一国家をつくったが、前22世紀滅んだ。かわって前19世紀初めに同じ(6)語系の(8)人が(9)をおこし、(ア)ハンムラビ王のときに全メソポタミアを支配した。しかし、前17世紀半ば頃、アナトリア高原に強力な国家を建設した(10)人が、メソポタミアに遠征し(9)を滅ぼし、シリアにも進出してエジプトと戦った。(10)人は、(11)語族であり、早くから鉄器を使用していた。

B ギリシアの歴史家(12)に「(13)のたまもの」といわれたエジプトでは、王である(14)が生ける神として専制的な神権政治をおこなった。(13)川下流域の(15)を中心に栄えた古王国期には、(16)王らがおそらく自分の墓として(イ)巨大な建造物を築かせた。これは神である王の絶大な権力を示している。中王国時代には、中心は上エジプトの(17)に移ったが、末期にはシリア方面から遊牧民(18)が侵入し国内は一時混乱した。しかし、前16世紀に(18)を撃退して(ウ)新王国が成立し、さらにシリアに進出した。エジプト人の宗教は太陽神(19)を中心とした多神教で、新王国時代には首都(17)の守護神(20)と結びついた信仰が盛んになった。エジプト人は靈魂の不滅を信じてミイラを作り、「(21)」を残した。

C 前2千年紀の初めに北メソポタミアにおこった(22)王国は、前15世紀には(23)王国に服属した。(22)は、その後独立を回復し、鉄製の武器と戦車・騎兵隊などをもちいて、前(24)世紀前半に全オリエントを征服した。なお、前11世紀に新王国が滅亡した後のエジプトには、(25)王国が前8世紀からナイル川上流から進出していたが、

(22) の侵攻を受けてエジプトの南方に退いた。(22) の王は、国内を州に分け、駅伝制を設け、各地に総督をおいて統治したが、重税と圧政によって服属民の反抗をまねき、前 (26) 年には崩壊した。オリエントは、アナトリアの (27) などの 4 王国が分立することになった。

D 前 6 世紀半ば、イラン人の (28) 2 世が (29) をおこし、(27) などを征服したのち、バビロンを占領して (30) 人を捕囚から解放した。第 3 代の (エ) ダレイオス 1 世 は、エーゲ海北岸からインダス川にいたる大帝国を建設し、オリエントは再び統一された。彼は金貨・銀貨を発行し、海上では (31) 人の交易を保護し、財政の基礎を固めた。陸上では要地を結ぶ「(32)」と呼ばれる国道をつくり、首都 (33) を中心に駅伝制を整備した。(29) は征服した異民族に寛大な政治を行ったが、前 5 世紀前半のギリシアとのペルシア戦争に敗れ、ついに前 330 年には (34) のアレクサンドロス大王に滅ぼされた。(29) はオリエントの諸民族の文化を統合し、(5) 文字を表音化して (35) 文字をつくった。イラン人は、(36) 教を信仰し、この世を光明の神アフラ＝マズダと暗黒の神アンラ＝マンユとの闘争と説き、最後にはアフラ＝マズダが勝利するとした。

問い A～D の文章の空欄 (1～36) に適切な語句を入れて文章を完成せよ。
語句は下の「語句欄」から選べ。

【語句欄】

6	7	8	221	334	431	480	612	722	アメン
アケメネス朝	アッカド	アッシリア	アムル	アルファベット					
イオニア	イスファハーン	インダス	インド = ヨーロッパ						
ヴァルダナ	ウル	エフタル	王の道	カエサル	絹の道				
旧約聖書	キュロス	楔形	クノッソス	クシュ	クフ	甲骨			
ササン朝	死者の書	シュメール	神聖	新バビロニア	スサ				
西方	セム	ゾロアスター	ティルス	テーベ	東方				
ドラヴィダ	ナイル	バビロン第1王朝	ヒッタイト	ヒクソス					
ファラオ	フェニキア	フランク	ペルシア	ヘロドトス					
マケドニア	ミタンニ	メディア	メンフィス	ユダヤ					
ユーフラテス	ラー	リディア							

37 Aの下線部（ア）はハンムラビ法典を發布した。「目には目を，齒には齒を」で知られるその刑法の原則はなにか。

38 Bの下線部（イ）はなにか。

39 Bの下線部（ウ）では，前14世紀にアメンホテプ4世が信仰改革をおこない，その影響で写実的な美術がうみだされた。その美術はなにか。

40 Dの下線部（エ）は，各州に知事をおいて巨大な帝国を統治した。その知事をなんというか。

Ⅲ 次の問い（１～４）から一つを自由に選択して答えよ。ただし，選択した問いの番号を「選択した問いの番号」欄の丸かっこ内に明記し，解答は「解答欄」に必ず収めよ。

- 1 仰韶文化と竜山文化の特徴を，両者を比較しつつ説明せよ。
- 2 パンジャーブ地方に侵入したアーリア人の身分制度について，その形成展開過程に焦点を当てて説明せよ。
- 3 第二次世界大戦中の1941年８月，ローズヴェルトとチャーチルによる会談で発表された大西洋憲章とは，どのような内容か。説明せよ。
- 4 ヤルタ協定で決められた秘密条項とは，どのような内容か。説明せよ。

I

- 1 民族自決
- 2 オーストリア
- 3 ズデーテン
- 4 ネヴィル＝チェンバレン
- 5 従属国
- 6 保護領
- 7 解体
- 8 フィンランド
- 9 バルト
- 10 ベッサラビア
- 11 モスクワ
- 12 ファシズム
- 13 スターリングラード
- 14 コミンテルン
- 15 テヘラン
- 16 アイゼンハワー
- 17 ノルマンディー
- 18 東欧
- 19 クリミア
- 20 ベルリン

II

- 1 東方
- 2 ユーフラティス
- 3 シュメール
- 4 ウル
- 5 楔形
- 6 セム
- 7 アッカド
- 8 アムル
- 9 バビロン第一王朝
- 10 ヒッタイト
- 11 インド＝ヨーロッパ
- 12 ヘロドトス
- 13 ナイル
- 14 ファラオ
- 15 メンフィス
- 16 クフ
- 17 テーベ
- 18 ヒクソス
- 19 ラー

- 20 アメン
- 21 死者の書
- 22 アッシリア
- 23 ミタンニ
- 24 7
- 25 クシュ
- 26 612
- 27 リディア
- 28 キュロス
- 29 アケメネス朝
- 30 ユダヤ
- 31 フェニキア
- 32 王の道
- 33 スサ
- 34 マケドニア
- 35 ペルシア
- 36 ゴロアスター
- 37 復讐法
- 38 ピラミッド
- 39 アマルナ美術
- 40 サトラップ

Ⅲ

- 番号：1 仰韶文化は黄河中流域において、前5千年紀に開花し、彩文土器（彩陶）で知られるのに対して、竜山文化は黄河中・下流域において、前3千年紀に広がり、黒陶に代表される。
- 番号：2 バラモン（司祭）、クシャトリヤ（武士）、ヴァイシャ（農民・牧畜民・商人）、シュードラ（隷属民）という4つの身分に人々はわかれるとするヴァルナ制と呼ばれる身分的上下観念が生まれ、さらにジャーティ（カースト）集団が多数生まれてきた。
- 番号：3 人民の願望に反するいかなる領土の変更も欲しない、また人民が政体を選択する権利を尊重する、あらゆる国家が経済的繁栄に必要とされる世界の通商及び原料の均等な開放を共助できるように努力することなどを宣言し、42年1月の連合国共同宣言で戦後構想の原則として確認された。
- 番号：4 ドイツ降伏後3カ月以内に、ソ連が対日参戦することを認めた。このときローズヴェルトは、ソ連による対日参戦と引きかえに、南樺太と千島のソ連領有を認めた。